

## 来賓挨拶

経済産業省製造産業局金属課  
金属技術室長 木原栄治殿

あけましておめでとうございます。

本日は、賀詞交歓会にお招きいただきまして誠にありがとうございます。

先ほど会長よりお話がありましたが、昨年を振り返ってみますと豪雨、台風、地震など災害が多く発生いたしました。この業界におかれましては北海道胆振東部地震における電力不足に関し様々な御協力いただきましたことを改めて御礼申し上げます。

昨年は様々な災害が発生しましたが、明るい話題もありました。今年はラグビーワールドカップの年です。来年は東京オリンピック・パラリンピックの年でございます。それに続くこととして2025年、大阪での万博開催の誘致に成功することができました。過去の万博に比べて準備期間は短いと言われておりますが、有益な機会になりますよう官民あげてオールジャパンで取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きご支援、ご協力賜りますようよろしくお願い致します。

世界に目を向けてみますと、引き続き鉄鋼の過剰生産能力が世界的な課題となっております。保護主義的な動きがございますが、そうした動きがあるからこそ多国間の枠組みである鉄鋼グローバル・フォーラムにおいて具体的な成果を出すことが重要になってまいります。日本は昨年12月から議長国になっております。生産能力削減に向けて、引き続き積極的な交渉を進めてまいりたいと考えております。

この業界の業況を振り返ってみますと、出荷量については概ね前年と同レベルで推移し、価格については足元では若干、下落しているものの前年を上回る水準で推移していると聞いております。出荷量と価格を見てみますと緩やかな改善が続いているように見えますが、コスト増や人材確保など楽観視できない要素があると認識しております。また昨年末から中国が雑品の輸入を停止しております。このような中で国内での鉄リサイクルの重要性が益々、高まっております。昨年のニュースを見てみますと企業合併に向けた動きもあり、様々な企業努力、または業界内で連携した取組みをされていると認識しております。皆様には重要な鉄リサイクルシステムを支えていただき、深く感謝をしております。

昨今、第4次産業革命が来ると言われております。IoT、ビッグデータ、AIなど新しい技術が著しく進歩しております。新しい産業も生まれつつあります。経済産業省としてはそのような動きを後押しするためAIを用いたデータの活用などを推進しております。この業界においても新しい技術を活用した新しい取組みを行なう余地があると思っておりますので、そうした具体的な取組みが進展することを期待しております。

最後に安全対策について触れたいと思っております。経済産業省においては製造業安全対策官民協議会を立ち上げて業種横断的な情報共有等を進めているところでございます。各社におかれましては協議会の取組みを参考にしながら、より一層の安全対策を進めていただきたいと思います。

最後になりますが、今年が平成最後の年であり新しい元号が始まります。この一年が日本鉄リサイクル工業会と本日ご列席の皆様にとりまして、新しい時代を切り拓く年となることを祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。